
スロウ

桐野コウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スロウ

【著者名】

N5536D

桐野コウ

【あらすじ】

ゆるいコンペーントのゆるい一日にチャーチさんといつもセシスを

「まったく、何でお前はいつもやうなんだ」

「はあ、すいません」

俺の一日は、先輩の大きなため息から始まった
先輩はかれこれ十分前からずっと怒っている
きっと俺が棚卸しの時間を間違えたからだ
あ、そういうえばポテトチップス新発売のやつまだ食べてないや、よ
し帰りに買って帰ろう
社員割引を使えば確かに三十パーセントくらい安くなるはずだし、取
り置きしどけば売り切れる事もない

それが、俺がコンビニでバイトを始めた理由

「へーっておーい、ちゃんと話聞いてんのか！」

「やういえは先輩、中国の孔子って身長一メートルもあつたらしい
ですよ」

「俺はお前のやういう脈絡のないところが嫌いだ」

呼び出したのは先輩のはずだったのに

「お前邪魔だからレジ番でもしてろ」と言われて、俺はレジの前に
追いやられた

先輩はきっとこれから俺が間違えた棚卸しをやり直すんだと思つ

朝のラッシュが過ぎたコンビニは、ビルか雑然としていて妙に静かだ
お弁当コーナーだけがやけに空っぽで、今日もお弁当は完売したの
だと知る

みんなお弁当を作るのがそんなに嫌なのかそれともコンビニ弁当歴
好家がこの地区ではすうじゅうこののか、朝にお弁当が売り切れないこ
とはめったにない

俺もいつか食べてみよつと思つているけどいつも取り置きし忘れて、
お昼は梅昆布おにぎりで我慢してくる
ポテトチップスはそんなことがなによつて今のうちに取つておかな
いと

先輩がダンボールから何かを取り出す音がある

聞こえるのはそのガサガサという音だけ、あとは何も聞こえない

ふと、レジの横に置いてある中華まん用の保温器が皿に入った
肉まんカレーまんあたりならまだ分かるけど、ピザまんとかチョコ
まんなんて物は一体何がしたいのか分からぬ
ピザはピザ、チョコはチョコで良いじゃないか

むしろ中華まんになつてしまつた今、それはピザやチョコの原型を
留めていない気がする

これを商品化した奴に中華まんの定義を聞いたい、それはもう少
時間ほど問いつめてやりたい

お前は中華まんを一体何だと思つてているのかと、お前のせいで中華
まんの質が

「すいません、チョコまんください」

気づいたらレジの前に女の子が立っていた

女子高生だらうか、制服に青いマフラーを巻いている

「チヨンまん一つですね、百五十円になります」

俺は保温器から茶色い形のチヨンまんを一つ取り出して専用の袋に突っ込む

良かつたなチヨンまん、もし世界に密が俺しかいなかつたらお前は確実に売れ残つてたゞ

「お兄ちゃん、チヨンまん好き?」

「はい?」

「だから、チヨンまん好き?」

女子高生は俺が差し出した袋を受け取りながらそう言つた
何で突然見ず知らずの高校生にそんなことを聞かれなきやならんのだ、何の権限があつてお前は俺に聞いてるのだ
だけど俺は思い出した、今は接客中お客様は神様です

「いや、別に あまり好きじゃなしシス」

「やっぱりね、そういう顔してると」

女子高生はそれから

「おこしこのにー」と歌つよひにちひを出でいった
何だつたんだ今のは、チヨンまんの妖精が俺に文句でも言つにきたのか

女子高生が出てこつてからお皿になるまで、密は本当にまばらにして

か来なかつた

いつか潰れるぞ、このコンビニ

そうなると俺は無職になるんだけど、まあそれは明日明後日の話じ
やないし今は気にすることでもないから別に良いや

その代わりお皿はこれでもかといつくらい混んでいた混んでいる時
の先輩は機嫌が悪いし、何より人使いがそれはもうかなり荒い
「ぼーっとすんな、ちゃんと働け！」と五回以上言われても俺の動
きは変わらなかつた

だつて俺の中ではこれが最高速度ギネス記録級なんだ

チヨコまんの妖精もとい女子高生は、その日の夕方またやつて來た
青いマフラーに付いていた雪が店内に入つてすぐ透明になる

「チヨコまんください」

「チヨコまん一つですね、百五十円になります」

一日にあの得体の知れないものを一つも食つのかこの女は
これは本気でチヨコまんの妖精かも分からんね

「お兄さん、チヨコまん嫌いなんですよ？」

袋を手渡すと同時にまた同じ質問をされた

いや、今度は確認とでもいづべきか

「、はあ」

「どうせ食べたことないんでしょう？食べてみなよ」

女子高生はやつれて俺がわざを包んだ袋を俺に突き返した

「は？」

自分が食べるためには買つたんじゃないのか、それとも俺をただからかっているだけなのか

どちらか判断がつかないままチョコまんの入つた袋を受け取ると、

女子高生は

「おじつてあげる」と笑つてコンビニから出でていった

女子高生に奢られる俺、しかも中身はチョコまんそのまま保温器に戻しても良かつたんだけど、もう料金払つちゃつたし何よりわざわざ奢つてもらつたものだから袋から取り出して一口食べてみる

あ、意外とおいしい

「何バイト中に勝手に物食つてんだ！」

ちょうど奥から出てきた先輩に頭を叩かれたけど、俺はチョコまんを食べるのを止めなかつた

女子高生の姿はもう見えない、これからもきっとこのコンビニにはもう来ない、そんな気がする

今日も平和な一日だつた

スロウ

(やせしへ過ぎてこく、)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5536d/>

スロウ

2010年12月14日17時46分発行